

2014年 6月24日(火)

きょうの紙面

- 親子でリトミック(2)
- 図書館でバッグ作り(3)
- お年寄りが民謡楽しむ(8)

©上毛新聞社 2014年

夏至にキャンドルナイト

ろうそく囲み
心ゆるやかに

大泉

ろうそくの火を囲み、夏至の夜をゆるやかに過ごしてもらおうと、大泉町吉田のコミュニティルーム・ロンドで21日、キャンドルナイトが行われた。地域住民20人が参加し、沼田市下発知町の観音寺住職、五十木晃健さんの講話に耳を傾けた。



キャンドルで描かれた「未来」の前で講話する五十木さん

「和合」説く講話、座禅体験



座禅体験で警策をいただく参加者

会場エントランスには、赤、黄、オレンジ色のキャンドル95本で「未来」の2文字が描かれた。環境保護をはじめ、東日本大震災の犠牲者の追悼と被災地復興への願いを込めた。観音寺は曹洞宗の山寺で、五十木さんは太田市出身。自ら描いた一休禅師のイラストを示しながら、禅師が残したとされる「心配は6年前から取り組んでするな。何とかなる」の遺言(遺言)を紹介。「みんな話し合えば何とかなる」ということを言っている」と解説し、和合を説いていることを強調した。「はじめは当たり前だった」と自らの修行時代に触れるとともに、「人を傷つけるのに言葉なら1秒」とも述べ、相手を思いやることの大切さを説いた。簡単な座禅体験も取り入れた。コミュニティルームは、住宅・店舗のリフォームや新築を手掛けるライフアート(川島幹夫社長)が、事務所に併設し、地域に開放。夏至のキャンドルナイトは6年前から取り組んでいる。

参加者はキャンドルの炎が揺れる中、ユーモアあふれる講話に耳を傾け、スロライフのひとときを過ごした。川島社長は「講話を聞いてとても新鮮な気持ちになった」と喜んでいた。

▲太田で「レディオ」

キャンドルナイト

▼大泉で和尚の説法



「一瞬が大切」と説く

起業から倒産、破産を経て仏門へ入った和尚の説法を聴く一風変わったキャンドルナイトが大泉町のリフォーム会社が運営するコミュニティルームであった。

え、「生老病死、この一瞬が何より大切」と説いた。住職とリフォーム会社の役員が同窓会で再会し、説法キャンドルナイトが実現した。

コミュニティルーム

「未来」と並べたらうそその前で話したのは沼田市の名物和尚、曹洞宗石尊山観音寺住職、五十木晃健さん＝写真。一休さんや孫悟空の話进行交流。 (粕川康弘)

は、着物の着付けや絵手紙のカルチャー教室、若い女性起業家たちのPRイベントなど、地域の人たちの活動に利用されている。